

海外客呼び込みもう

仙台市で20日に始まる財務相・中央銀行総裁会議にあわせて、会場となる太白区の秋保温泉に外国人向け低価格ホテルがオープンした。市内には英語による体験ツアーの企画会社も立ち上がるなど、海外から観光客を呼び込む動きが活発化してきた。

G7会合きっかけ

「若いお客さんに、わいわい過ごしてほしい」。9日に開業した「KYOU(響)」の広報担当者はそうPRする。会議で主会場となる老舗旅館「佐勘」が、6階建ての旧女子従業員寮を全103室のホテルに生まれ変わらせた。

1泊4500円(税抜き、繁忙期を除く)の安さが売り。佐勘なら、安くても1泊2食付きで1万8千円。他の秋保温泉の一般的な旅館やホテルも、1泊2食付きで1万2千円程度はするという。

12平方メートルの部屋にあるのはシングルベッドや机くらいで、温泉が楽しめる浴室とシャワーは共用。その代わり外から食べ物を持ち込み、食費も節約できる。1階にはパントリーがあり、ホテルのスタッフは英語も話せる。

低価格で外国人や若者をひ

秋保温泉に低価格ホテル



ホテル「KYOU」1階のラウンジバー。英語の案内が出されている＝仙台市太白区

き入れようとする背景には、観光客の伸び悩みがある。2014年の宿泊者数は、県全体では05年と比べて8・8%増えて862万人になったのに、秋保温泉では8・3%少ない87万人。佐勘も「利用してくれるのは団体ツアーか常連の個人客ばかり」のため、新機軸に踏み切った。

英語OK体験ツアー・食べ歩き

名取川を下るラフティングや秋保大橋から飛び降りるパンジージャンプ、秋保ワイナリーでの試飲、そば打ちなどのプランが持ち上がっている。「財務相会議で海外での知名度が上がっても、行ったら何もなかったとなれば観光客に見放される」と担当者は話す。

秋保以外にも海外の個人客を想定した体験ツアーの動きが出ている。仙台市青葉区に今年1月にできた「アトラク東北」は、7月にも食べ歩きやほしご酒のツアーを始める。

英語のガイド付きで仙台朝市のコロッケやたい焼きをつまみ食いしたり、いろは横丁を巡って1杯数百円で飲んだりするという。日本の技術の高さが海外でも評判のネイルアートやメイクを楽しみ、写真も撮ってもらうツアーも用意する。2〜3時間で料金は1人3千〜1万円だ。

後藤光正社長は、市民自身による「おすすめスポット」発見で、まちの活性化をめざす「センダイ自由大学」を運営する。「観光協会が紹介する名所旧跡にとどまらず、市民がふだんから味わっている楽しさを提供していきたい」

(小宮山亮磨)